

RED HAT® ENTERPRISE LINUX®



Red Hat Enterprise Linuxは国内Linux市場で80%以上のシェアを誇ります。一般的なx86_64アーキテクチャの他、IBM Power SystemsおよびIBM z Systemsもサポートしています。さらにARM v8A向けのプレビュー版を出荷しており非常に多様なハードウェア環境で均一な実行環境を提供します。

Red Hat Enterprise Linuxの特徴として、ハードウェアベンダやクラウドプロバイダ、ISVと協調して認定カタログを公開しており、あらかじめ互換性問題のリスクを最小限に抑えて構築に取りかかれる点があります。構築・運用時には最大で24時間365日のサポートが提供されます。サポートへのお問い合わせから判明した製品の問題に対して、必要な修正を開発し提供いたします。

Red Hat Enterprise Linuxにはメジャーバージョンごとに初期出荷日から10年間のライフサイクルがあらかじめ定義されています。この期間中はポリシーに従って新規ハードウェア対応・機能拡張・バグ修正・セキュリティ問題の修正などのメンテナンスを継続します。アプリケーションおよびカーネルモジュールに対する互換性を維持しつつ新機能のバックポートもしています。

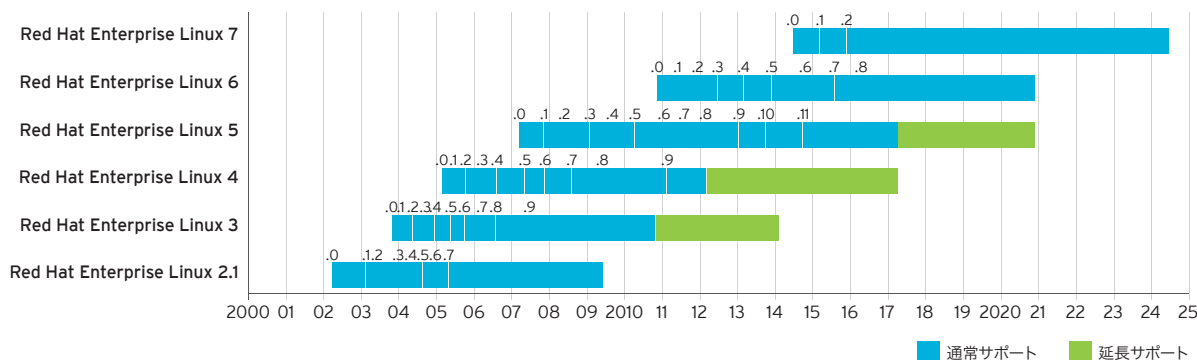
Red Hatは製品とそのサポートを提供するだけでなく、実機を使った演習型のトレーニングや、専門のエンジニアによるコンサルティングサービスも提供しています。お客様が新しい技術へ挑戦される際はご活用ください。



長期間のライフサイクル

Red Hat Enterprise Linuxには10年間のライフサイクルがあらかじめ定義されています。この期間中はポリシーに従って新規ハードウェア対応・機能拡張・バグ修正・セキュリティ問題の修正などのメンテナンスを継続いたします。あらかじめライフサイクルを公開することでお客様が運用計画を立てるために必要な情報を提供しています。

関連リンク >> <http://red.ht/1Sprbf0>



多様な環境で動作

Red Hat Enterprise Linuxは物理サーバー、仮想サーバー、プライベートクラウド、パブリッククラウドと多様な環境で動作します。それぞれの提供ベンダと互換性認定作業をおこない、お客様がRed Hat Enterprise Linuxを利用するあらゆる環境で均一な環境を提供し、アプリケーションの互換性を維持するようつとめています。

関連リンク >> <http://red.ht/28PzHaP>



物理サーバー



仮想サーバー



プライベートクラウド



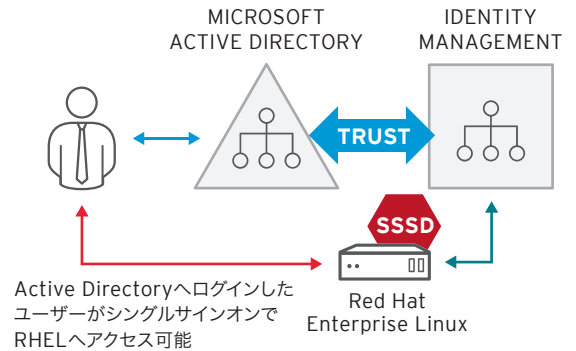
パブリッククラウド



Windowsとの相互運用性

Red Hat Enterprise Linuxに同梱されるSSSDとrealmdにより、Microsoft Active Directory(AD)ドメインに簡単に参加することができます。Identity Managementを利用することで、ADドメインと相互にシングルサインオンが可能なLinuxドメインを構築でき、OTPの運用、sshの鍵配布、sudoポリシー配布などの連携も可能です。

関連リンク >> <http://red.ht/28PAWFK>



セキュリティ

Red Hat Enterprise LinuxはCommon Criteriaの汎用OS向けとしては最高レベルであるEAL4+で認定を受けています (Red Hat Enterprise Linux 7は認定作業中です)。SELinuxおよびsVirtなどのセキュリティ機能以外にも、暗号化や乱数生成も含めた綿密なチェックを行っています。Red Hat Enterprise Linuxの重大な問題の95%は、公開されてから1日以内に修正が出荷されています。Red Hatは専任のセキュリティレスポンスチームを擁し、コミュニティとの緊密な連携によりこれを実現しています。カスタマーポータルへRed Hat Enterprise Linuxを登録することで自分のシステムに影響する修正についてメールで通知を受けとることが可能なほか、製品のセキュリティ情報は機械可読な状態で提供されておりRed Hat Enterprise Linuxに内蔵されるyum security plugin、別売のRed Hat Satellite、OVAL対応の各種ソフトウェアでも活用可能です。

関連リンク >> <http://red.ht/28Os8Pn>



設定のチェック

Red Hat Enterprise Linuxの設定は多岐に渡ります。適切な設定を維持することは健全なシステムのベースラインを維持するために必須の作業ですが大変な労力がかかります。Red Hat Enterprise Linuxには各種設定の確認を自動で行うための標準規格であるSCAPの実装であるOpenSCAP、SCAP規格で記述されたポリシー文書であるSCAP Security Guide、ポリシーのカスタマイズを行うSCAP Workbenchを同梱しています。PCI DSSなどの規格にあわせたプロファイルを用意していますので活用していただくことで設定のチェック作業を簡素化できます。Red Hat Satelliteと連携することで定期的なチェックの実施とレポートの保存が可能です。

関連リンク >> <http://red.ht/28PuSN1>



プロアクティブなサポート

Red Hat Enterprise Linuxのサポート体制は手厚いものですが、基本的には問題が発生してから対応するモデルです。しかしお客様の環境には潜在的な問題があるかもしれません。サポート部門で蓄積されたナレッジをもとに、潜在的な問題を検出するRed Hat Insightsが開発されました。Red Hat Insightsは既知の問題の原因となりうる設定ミス、更新の適用漏れ、特定ハードウェアとソフトウェアの組み合わせ、サードパーティ製品とRed Hat Enterprise Linuxの標準設定の競合など多数の潜在的な問題を検出し、適切な対応方法とともにレポートします。

関連リンク >> <http://red.ht/1HHoDuz>

